

住み慣れたこのまちで、ずっと笑顔で

「地域のつなぎ役」「生活支援コーディネーター」

3人に1人が高齢者の時代

「超高齢社会」とは、WHO（世界保健機関）などの基準で「65歳以上の人口の割合が全体人口の21%を超えた状態」を指します。

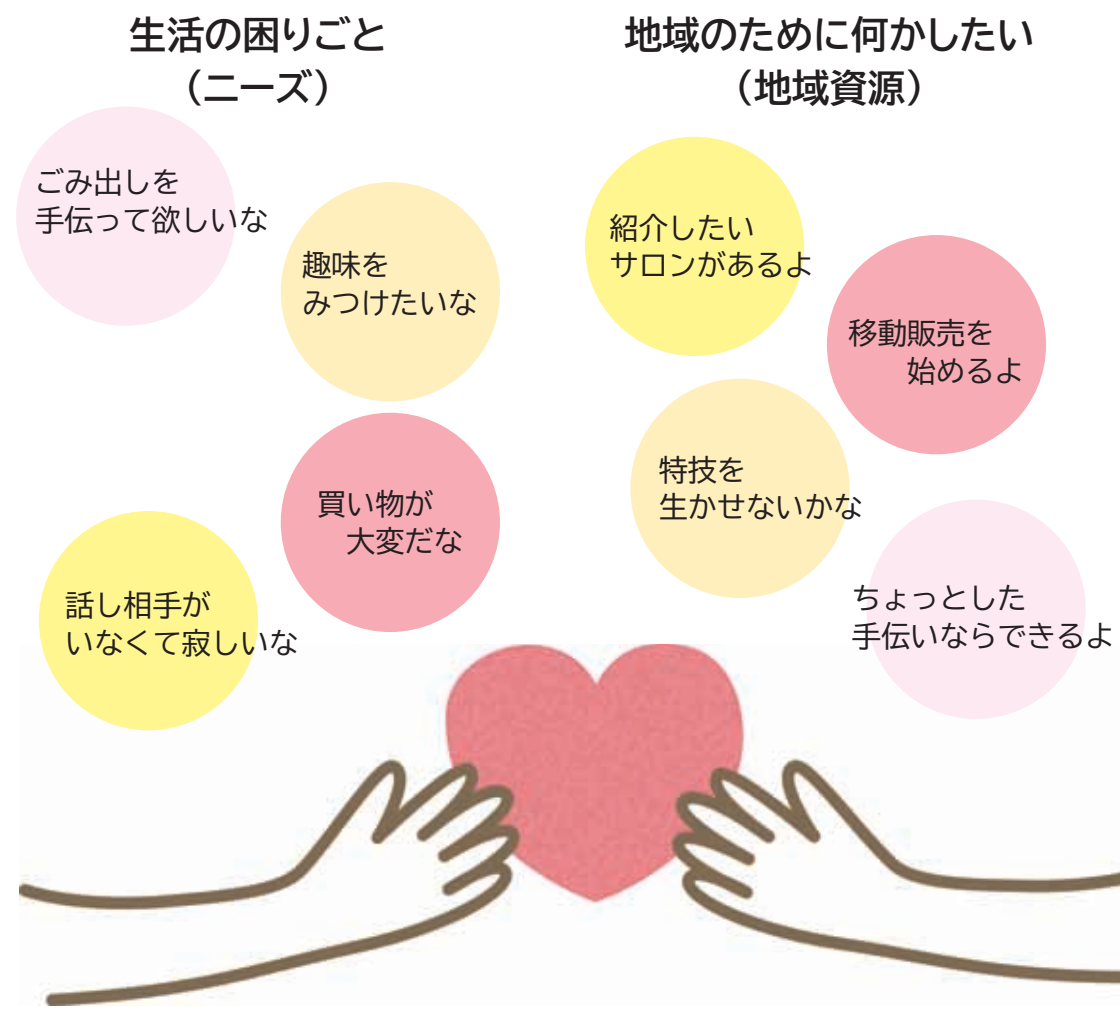
土岐市の令和7年度時点での高齢化率は33・6%です。基準を大きく超え、「超高齢社会」に突入しています。3人に1人が高齢者であり、地域社会にさまざまな課題が生じる状況です。そんな中でも多くの市民が「住み慣れたまちで、安心して暮らしたい」と願っています。

いきいきと活躍する元気なシニアが増える一方、年齢を重ねるにつれ、日常生活で困りごとを抱える方が増えているのも事実です。

生活支援コーディネーター

これらの日常生活のちょっとした困りごとは、介護保険のサービスを受けるほどではないけれど、放っておくと生活が立ち行かなくなることもあります。住み慣れたまちで生活を続けることを諦めなければならぬとしたら、とても悲しいことです。

高齢者の「ちよっと手伝ってほしい」という声と、地域の「お手伝いできるよ」という力をつなぎ、地域全体で支えあう仕組みを作るのが「生活支援コーディネーター」の役割です。生活支援コーディネーターは、地域の困りごとを聞き取る・地域の資源（人材や団体、企業など）を探す・地域での支え合いの仕組みを作るという活動をしています。



こんな活動をしています 生活支援コーディネーター

地域の行事に参加

4月4日
鶴里町柿野にある荘厳寺で開催された「花まつり」へ足を運びました。生活支援コーディネーターは、相談室で待っているだけではありません。地域の行事に参加し、住民の皆さんと何気ない会話を交わすことも大切な活動です。雑談の中にこそ、支援を必要としている人のサインや地域を助けてくれるボランティアの発掘など、大切なヒントがたくさん隠れています。

駅前清掃活動



4月9日
土岐市駅前ロータリーで朝の清掃活動を行いました。地元の高中生や地域でお店を営む方々も参加してくれました。この清掃活動は、まちをきれいにするだけの場ではありません。ここで顔をあわせるうちに、「今度、こんなイベントを一緒にやってみない？」と新しいアイデアが生まれ、企画が動き出すこともあるのです。

出張カフェで交流



4月9日
とき陶生苑ききょうで、月に一度オープンする出張カフェ「しあわせ珈琲」にお邪魔しました。会場には、近所にお住まいの方が歩いていらっしゃいます。おいしいコーヒーをいただきながら、日ごろのちょっとした悩み事を聞いたり、最近の出来事などを楽しくお話ししたりしました。

イベントの打ち合わせ



4月10日
ある団体が計画している「田植えイベント」の打ち合わせに出掛けました。打ち合わせが進むにつれて話は熱を帯び、農業の未来から福祉、居場所づくりへと、どんどん広がっていきました。分野の垣根を越えて、それぞれの「想い」を形にする橋渡しをするのも、大切な役割のひとつです。

私たちが生活支援コーディネーターです

困っている人と地域をつなげるのが私たちの仕事です。今は、事業所や地域の皆さんが集う場に伺い、話を聞きながらつながりをつくっているところです。まちで私たちを見かけたら、ぜひ声をかけてください！



北部担当 田中さん 南部担当 今井さん 総括 小川さん

地域での支え合い活動に興味がある方は、気軽にご連絡ください。

☎ 高齢介護課（内線232）